

「還流」制度の破綻か！？ 個人の希望は無視され続けています！

今年も駅への「還流」の指名が9名の運転士、車掌にありました。既に駅に出て5年を経過して運輸所に戻ってきている社員もいますが、全員が戻ってきているわけではありません。心身とも良好な状態で仕事が出来ればいいのですが、現実にはそれぞれの環境や労働条件に合わずに悩んでいる社員がいるのも事実です。乗務員の登用のために頑張ってきた時間や労力を無視され、所長からの通知のみで有無を言わず個人の希望を無視している現状のやり方は社員の健康と安全をないがしろにしています。これでは事故を招くだけです。

また還流に出ていった後の職場は、中堅の社員がいない状態となり新人の乗務員を教える社員が少なくなり、若手が若手を教える現状となっています。これも事故やミスを招く原因になります。

当初、駅の中堅社員がいなくなり技術の継承が難しいということが理由のひとつとされていましたが、駅へ行ってようやく慣れた頃に運輸所に戻ることが出来ますが、抜けた駅の現場でも同じ様なことが起きているのではないのでしょうか。戻ったときには当該の社員に通知した頃の現場長はおらず、現在の現場長が当該社員に責任持って通知しているとは到底感じられません。私たちはこのような、社員の希望を無視するやり方には断固、反対です。

社員をふるいにかけるやり方はおかしい！

また、今月になって三島研修センターで新幹線運転士の研修を行っていた10名に及ぶ社員が研修期間途中で東京、大阪の各職場に戻ってきました。聞くところによると最終的な試験の結果によるものとの事ですが、そもそも会社部内の研修機関であり運転士になるために努力してきた時間を何とかフォロー出来ないものかと疑問に感じます。車掌から運転士になるために研修を行っていた若手社員も「還流」の運用の中で、車掌のままでいいという本人の希望を無視された社員も中にはいるのです。何人もの社員を集めてふるいにかけるようなやり方は、社員を人間扱いしていない姿勢そのものです。当該の社員のショックもあるでしょうが、職場の周りの社員に与える動揺も隠せません。

私たちは、会社の意に沿った社員でなければ社員でないような扱いをする会社のやり方に断固抗議します！まさしく「規律と忠誠心」「命令と服従」を徹底して社員の意識に植えつけるやり方は「何も言わない従順な社員づくり」を目的にしているものです。